

コンプリートファイティング 公式ルール (アマチュアクラス)

【第1条】

- 1 選手は18歳以上でコンプリートファイティングコミッション(以下CFC)が認可した者。
- 2 レフェリーは絶対的権限を持つものとし、選手、セコンドはレフェリーの指示に従わなければならない。
- 3 選手は大会当日の試合前に必ずドクターチェックを受ける。
- 4 試合場はCFCが認可したリングで行う。
- 5 選手はCFCが用意したオープンフィンガーグローブを着用する。
- 6 アマチュアクラスの場合は、CFCの用意する頭部への装備(ヘッドギアかスーパーセーフ面)を出場申込書にて選択することができる。ただし頭部への装備が異なる者同士での対戦は組まれない。
- 7 試合形式は1ラウンド3分間の2ラウンド制(インターバル60秒)で行い、それ以降は判定で勝敗を決定する。
- 8 頭部への装備の種類に関係なく選手はマウスピース、ファールカップを必ず着用する。
- 9 各選手の選択によりテーピング、エルボーパッド、ニーパッド、シンガード、アングルサポーター、シューズ、道衣を着用できる。ただしレフェリー、ジャッジによるチェックを受け、危険性が無いこと、攻防の妨げにならないと承認されなければならない。
※金属製の部品、ジッパー、表側にポケット等がある物は禁止。Tシャツなど破損しやすい物も不可。
- 10 拳へのバンテージ、テーピングはレフェリー、ジャッジによるチェックを受け、承認された場合のみ使用可。拳を固めるためのバンテージ、テーピングは禁止。
- 11 試合中10秒以上の膠着、または攻防の進展が見られない状態とレフェリーが判断した場合「ブレイク」となり、リング中央でスタンディングポジションから再開される。
- 12 試合中、選手がリング外へ落ちそうになったり、ロープやコーナーポストが著しく攻防の妨げになっている場合、レフェリーはその体勢のままリング中央へ移動させる。その際選手は動きを止めレフェリーの指示に従う。
- 13 セコンドは選手1人につき必ず1人は付けなくてはならない。最大2人までセコンドに付くことができる。
- 14 階級は体重別とし、フェザー級(60kg以下)、ライト級(65kg以下)、ウェルター級(70kg以下)、ミドル級(80kg以下)、クルーザー級(90kg以下)、(ヘビー級90kg超)
※別途、体重契約により対戦を組む場合もある。

【第2条】

試合の勝敗は下記で決定する。

1 KO(ノックアウト)

スタンドまたはグラウンドにおいて相手の攻撃を受けて、レフェリーの「ダウン」のコールがあつてから「5」カウントされるまでに試合続行姿勢を取れない場合。

2 ギブアップ

関節技、絞め技などの攻撃により、ギブアップの意思表示があつた場合。

ギブアップの意思表示は口頭でレフェリーに知らせるか、マットまたは相手の体をタップした場合とする。

3 TKO(テクニカルノックアウト)

「スタンディングダウン」「グラウンディングダウン」「ノックダウン」のいかなる種類の組み合わせであっても、同一ラウンド中に2度「ダウン」をコールされた場合TKOとなる。2度の「ダウン」があつてもラウンドが異なる場合、TKOは成立しない。

a) 「スタンディングダウン」

→スタンドにおいて打撃攻撃を受け、実際に「ダウン」しなくても、防戦一方となつたり、有効な強打とレフェリーが判断した場合「ダウン」をコールする。

b) 「グラウンディングダウン」

→グラウンドにおいて打撃攻撃を受け、実際に意識の喪失はなくても防戦一方となつたり、有効な強打とレフェリーが判断した場合「ダウン」をコールする。

c) 「ノックダウン」

→スタンドまたはグラウンドにおける打撃攻撃、あるいは投げ技などによるダメージで、すぐに試合続行不能状態であるとレフェリーが判断した場合「ダウン」のコールの後にカウントが取られる。

「1」～「4」カウントまでの「ダウン」に適用される。

※ TKO成立時以外の「ダウン」の後には一旦ブレイクし、リング中央でスタンドから試合再開となる。

※ 「ダウン」カウント中にラウンド終了となつてもカウントは続けられる。

4 レフェリーストップ

選手の意思表示の有無に関係なく、レフェリーが試合続行は危険であると判断した場合。

5 ドクターストップ

試合中選手が負傷し、リングドクターが試合続行が不相当と診断した時勝敗を決定する。

- a) 負傷原因が相手選手の正当な攻撃、または負傷した選手自身にあった場合、負傷した選手が敗者となる。
- b) 負傷原因が相手選手の反則にあった場合、反則を犯した選手が敗者となる。

6 失格

ルール上明記されていない事項であっても、悪質な行為、言動については即失格となる。

7 ノーコンテスト(無効試合)

偶発性の事故、または選手双方がルール違反を犯したことにより、一方もしくは双方の選手が試合続行不能となった場合。

事故発生が第1ラウンド中の時→ノーコンテストとなる。

事故発生が第2ラウンド中の時→事故が起こるまでの内容による。

判定で勝敗を決定する。

8 判定

試合時間内に勝敗が決定しなかった場合、下記の通り裁定しドローは無い。

a) 優勢勝ち

→いかなる種類であっても「ダウン」を多く取得したした方の選手を優勢勝ちとする。

b) 判定勝ち

→a)で「ダウン」の取得数が同数の場合、レフェリーと2名のサブレフェリーの三者による判定に委ねられ、支持の多い方の選手を判定勝ちとする。

採点方法は各ラウンド最大10点の加点方式を採用し、その内容は

ダメージ(3点)、極め技(3点)、ポジショニング(2点)、積極性(1点)、印象(1点)

反則1回(-1点~-4点)

※関節技、絞め技が決まりそうになるとレフェリーがコールする「キャッチ」についてはポイントにはならないが、判定の際の「極め技」の項目の判断材料となる。

9 試合放棄

セコンドによるタオル投入

【第3条】

下記の行為を反則とする。軽微な反則についてはレフェリーから注意(イエローカード)が与えられ、これは判定の際に減点として反映する。

反則の回数に関係なく悪質な行為については即失格(レッドカード)となる。

- a) 後頭部、延髄、脊髄への攻撃
- b) 金的攻撃
- c) 目、鼻、口内など粘膜部に対する直接的な攻撃、及びこれらを利用した攻撃
- d) 指関節を折る行為
- e) 肘による攻撃
- f) 噛みつき
- g) 頭髪を掴む
- h) 相手の用具、装備などを掴むこと。ただし道衣は除く
- i) ロープ、コーナーポストを掴む、手足を引っかける行為
- j) 両者または一方の選手がグラウンドポジションの状態では、膝から下の足部での頭部、顔面への撃は双方禁止される。ただし膝での攻撃は除く
※グラウンドの定義：足裏以外の身体部分がマットに接地した状態
- k) 故意にリング外へ出る、または相手をリングの外へ投げたり、押し出すこと
- l) 消極的姿勢
- m) レフェリーの「ダウン」のコール以降も攻撃を続けること
- n) いかなる種類のオイル、ワセリン、クリーム等を身体に塗布すること
- o) 選手及びセコンドがレフェリーや相手選手に対し、非人道的な人格を無視したような言動、行為をした時
- p) 道衣を着用した場合の、帯を攻防に使用すること
- q) 手、指で喉を掴むなどの攻撃

※ルール上明記されていない不測の事態についても選手、セコンドはレフェリーの指示に従うものとする。

※レフェリーを含む競技進行上の役員は、レフェリーと同等の権限を有し、試合中以外での悪質な行為、違反に対し「注意」「失格」等を宣告できるものとする。